

平成 28 年の全数把握対象疾患

平成 28 年までの全数把握対象疾患の届出状況は、表 1 のようになっている。

1. 一類感染症

届出はなかった。

2. 二類感染症

結核が 266 例の届出があった。昨年の 305 例から減少した。類型は、患者 193 例、疑似症患者 7 例、無症状病原体保有者 66 例であった。患者の病型は、肺結核が 148 例、その他の結核(結核性胸膜炎、結核性髄膜炎、脊椎結核、リンパ節結核、粟粒結核等)が 31 例、肺結核及びその他の結核が 14 例であった。全届出例の年齢階層は、0 歳 3 例、1～10 歳未満 3 例、10 代 3 例、20 代 11 例、30 代 14 例、40 代 22 例、50 代 22 例、60 代 38 例、70 代 51 例、80 代 70 例、90 代 28 例、100 代 1 例で、80 代が最も多く、70 歳以上で全体の 56%を占めていた(別添 1)。

3. 三類感染症

細菌性赤痢 2 例、腸管出血性大腸菌感染症 23 例の届出があった。

細菌性赤痢は 1 月と 8 月に届出があった。1 月の事例は 61 歳女性で、菌種は *S. sonnei* (D 群)、発病当日に喫食したパイナップルが原因と推定されている。8 月の事例は 42 歳男性で、菌種は *S. sonnei* (D 群)、発病 5 日前の台湾、発病 1～4 日前のインドネシアが推定感染地域とされている。

腸管出血性大腸菌感染症は、昨年とほぼ同数の届出であった。類型は、患者 13 例、無症状病原体保有者が 10 例で、その年齢階層は、10 歳未満が 5 例、10 代が 6 例、20 代 3 例、30 代 2 例、40 代 1 例、50 代 2 例、60 代 3 例、70 代 1 例であった。10 歳女児 1 例が HUS を呈していた。血清型・検出病原体は、O157 が 19 例(VT1&VT2 が 15 例、VT2 が 4 例)、O26 が 2 例(VT1 が 2 例)、O126 が 1 例(VT1 が 1 例)であった。HUS の事例は不明である。感染経路としては、推定ではあるが経口感染が 13 例、接触感染が 1 例、不明が 9 例であった。経口感染が推定されているものには肉類の喫食歴の記載があるものが 7 例、HUS の事例は、生レバー喫食の記載があった(別添 2)。

4. 四類感染症

E型肝炎 2 例、A型肝炎 3 例、デング熱 5 例、ボツリヌス症 1 例、レジオネラ症 10 例の届出があった。

E型肝炎は 8 月と 12 月に届出があった。8 月に届出があったのは、50 代男性で、感染経路等は不明、12 月に届出があったのは、30 代男性で、中国での刺身の喫食が推定感染経路とされている。

A型肝炎は、30 代女性 2 例、50 代男性 1 例の届出があった。女性はともに感染経路は不明、男性は台湾での貝類、生野菜喫食が推定感染経路とされている。

デング熱は 2 月 2 例、3・4・5 月に 1 例ずつ計 5 例の届出があった。全て海外感染事例であ

る。患者の病型は全てデング熱型で、症状のうち 2 日以上続く発熱、頭痛は全ての事例に共通していた。他には、発疹のみ 1 例、筋肉痛のみ 1 例あり、血小板減少・白血球減少の症状の記載があった者は 2 例であった。感染地域は、インドネシアバリ島が 3 例、インドネシアジャカルタが 1 例、シンガポールが 1 例で、うち 3 例でウイルス遺伝子検査が実施され、バリ島の患者から 1 型と 2 型、ジャカルタの患者から 1 型が検出されている。

ボツリヌス症は、2006 年以降としては初めての届出であった。10 月に届出があったのは 62 歳の男性で、病型は食餌性(食中毒)とされている。弛緩性麻痺、眼瞼下垂、嚥下困難、口渇、便秘、筋力低下、呼吸困難を呈していた。国立感染症研究所の検査により、血清からボツリヌス毒素が検出されている。推定感染地域は不明であった。

レジオネラ症 10 例の病型は全て肺炎型で、男性が 8 例(50 代 3 例、60 代 2 例、70 代 3 例)、女性が 2 例(80 代 1 例、90 代 1 例)となっている。推定感染経路は水系感染が 2 例、塵埃感染が 1 例、不明が 7 例となっている。なお、水系感染と推定されている 50 代男性が、発病 3 日後に死亡している。

5. 五類感染症

アメーバ赤痢 11 例、ウイルス性肝炎 1 例、カルバペネム耐性腸内細菌感染症 22 例、急性脳炎 4 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 5 例、後天性免疫不全症候群 3 例、ジアルジア 1 例、侵襲性インフルエンザ菌感染症 6 例、侵襲性髄膜炎菌感染症 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 23 例、水痘(入院例)3 例、梅毒 36 例、播種性クリプトコックス症 1 例、破傷風 3 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 5 例、麻しん 3 例の届出があった。

アメーバ赤痢の病型は、腸管アメーバ症 9 例、腸管外アメーバ症 1 例、腸管及び腸管外アメーバ症 1 例であった。患者は男性 9 例(40 代 3 例、50 代 3 例、60 代 2 例、80 代 1 例)、女性 2 例(30 代 1 例、40 代 1 例)で、推定感染経路は性的接触 4 例、経口感染 1 例、不明 6 例で、推定感染地域は、奈良県 5 例、県外(都道府県不明含む)5 例、国外(中華人民共和国)であった。

ウイルス性肝炎 1 例は 50 代男性で、遺伝子型不明で推定感染経路は性的接触であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、男性 12 例(50 代 1 例、60 代 3 例、70 代 4 例、80 代 4 例)、女性 10 例(40 代 1 例、70 代 3 例、80 代 2 例、90 代 4 例)で、全国の状況と同様に 60 歳以上が多く全体の 91%を占めた。病原体検出部位・菌種としては、血液 3 例(*Enterobacter cloacae*、*Serratia marcescens*、*Enterobacter aerogenes*)、血液・胸水・喀痰 1 例(*Serratia marcescens*)、血液・尿 2 例(MBL 産生大腸菌、*Enterobacter aerogenes*)、尿 12 例(大腸菌 1 例、*Citrobacter freundii* 2 例、*E. coli* 3 例、*Serratia marcescens* 2 例、*Enterobacter cloacae* 1 例)、喀痰 3 例(*Enterobacter cloacae*、大腸菌、*Klebsiella pneumoniae*)、胆汁 2 例(*E. coli*、*Citrobacter freundii*)、便 1 例(大腸菌)で、推定感染経路は以前からの保菌が 12 例、尿路カテーテルからが 6 例、院内感染 1 例、職場(介護施設)での感染 1 例、外傷 1 例、不明が 1 例であった。

急性脳炎は、1 月に 10 歳男児、2 月に 5 歳男児、3 月に 2 歳男児、6 月に 21 歳女性の届出

があった。原因病原体は、1～2月の男児はインフルエンザA、3月の男児はインフルエンザB、6月の女性は不明とされている。2月の5歳男児には、異常行動、言動が記載されている。

クロイツフェルト・ヤコブ病は、4月に60代及び70代男性1例ずつ、7月に70代女性の届出があった。3例とも病型は、古典型クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、2006年以降としては最多(5例)の届出があった。全国的にも2015年より増加している。3月届出の70代女性の血清群はA群、6月届出の60代男性はB群、9月届出の50代男性はB群で発病2日後に死亡、10月に届出があった80代女性はA群で病原体は*S. dysgalactiae*との記載があった。12月に届出があったのは、80代男性で血清型はC群及びG群で、発症翌日に死亡している。全例がショックとDICを呈していた。推定感染経路は50代男性が経口感染、60代男性が皮膚感染、80代女性が足白癬、その他は不明等と記載があった。

一方、後天性免疫不全症候群の届出は、2006年以降では最少の3例であった。全て男性で、2月に届出があった2例はともに27歳、病型はAIDSであった。AIDSと診断した指標疾患は、ニューモシスティス肺炎1例と、カンジダ症及びサイトメガロウイルス感染症1例であった。8月に届出(6月診断)があった35歳男性の病型は無症状病原体保有者であった。感染経路は27歳男性2名は性行為感染(同性間性的接触)、35歳男性は性行為感染(異性間性的接触)であった。

ジアルジア症1例は、40代男性で、便検体から鏡検にてランブル鞭毛虫シストが検出されていた。推定感染経路には、5年前の大韓民国への渡航歴の記載があった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、3月に80代女性、4月に60代女性、6月70代及び90代男性1例ずつ、7月80代男性、12月80代女性の計6例の届出があった。このうち80代男性は死亡している。血清型については、80代女性のみ記載がありb型とされている。また80代男性の検出病原体として *Haemophilus influenzae* + β ラクタマーゼとの記載があった。推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染が2例、咽頭常在菌1例、その他は不明であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症1例は、1月に届出のあった70代女性で感染死亡者とされている。意識障害・心肺停止状態で緊急搬送され、その次の日に死亡している。保健所による調査では、搬送される前々日までは特に変わりなく、前日に体調不良が発現していたとのことで、髄膜炎菌感染症特有の突発的な発症であったことがわかる。血清型については、保健研究センターを通じて国立感染症研究所で検査が実施され、Y型と決定された。

侵襲性肺炎球菌感染症は、昨年と横ばいの届出数であった。男性11例、女性12例で、40代1例、50代2例、60代4例、70代5例、80代10例、90代1例であった。90代女性は、発病5日後に死亡している。ワクチン接種歴があったのは2例であった。

水痘(入院例に限る)3例の病型は全て臨床診断例であった。40代及び50代男性、20代女性であった。50代男性は、蜂窩織炎及び横紋筋融解症、20代女性は妊婦水痘を呈していた。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染1例、飛沫・飛沫核感染及び接触感染が1例、不明1例であった。

梅毒は 36 例届出があった。平成 26 年より急増しており、さらに昨年より倍増している(H26:16、H27:19)。平成 26 年から全国的に梅毒の届出が増加しており、当初は特に男性同性愛者の中で HIV 感染症および梅毒の流行がみられていたが、徐々に女性も拡大している。本県でも、男性 24 例、女性 12 例と男性が多いが、ともに昨年より増加した。年齢層は、男性は 20 代 7 例、30 代 8 例、40 代 3 例、50 代 1 例、60 代 3 例、70 代 2 例で、女性が 10 代 1 例、20 代 6 例、30 代 3 例、40 代 1 例、90 代 1 例で、男女ともに 20 代及び 30 代の増加が著しい。患者の病型は、早期顕症梅毒 28 例(I 期:男性 15 例、女性 2 例、II 期:男性 6 例、女性 5 例)、晚期顕症梅毒 1 例(男性)、無症候(無症状病原体保有者)6 例(男性 2 例、女性 4 例)であった。感染経路は性的接触が 29 例(同性間 5 例、異性間 20 例、不明 4 例)、不明 7 例であった。同性間は男性のみである。推定感染地は、奈良県 16 例、奈良県以外(都道府県不明を含む。)19 例、国外(中華人民共和国・マカオ)1 例であった。なお、早期顕症梅毒(II 期)の 22 歳の女性には、妊娠 32 週との記載があった(別添 3)。

播種性クリプトコックス症は、平成 26 年 9 月から全数把握対象疾患となったが、平成 28 年に初めて届出があった。届出は 71 歳の男性で、免疫不全が感染原因とされているが、頭痛等の典型的な脳髄膜炎症状の記載は無い。

破傷風 3 例は、80 代男性 2 名と 60 代女性 1 名であった。すべて臨床決定(症状及び受傷歴等)であった。3 例とも開口障害があり、嚥下・発語障害や痙攣を呈していた。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は、昨年に引き続き届出があったが、5 例の届出はこれまででは最多である。男性が 60 代と 70 代の 1 例ずつ、女性が 60 代 2 例と 80 代 1 例であった。病原体検出部位・菌種としては、尿(カテーテル尿含む)4 例(*Enterococcus Faecium*、*Enterococcus faecalis*)、腹水 1 例(病原体検索未実施)であった。なお、耐性遺伝子の検索は全例実施されていない。

麻しんは、昨年に引き続き届出があった。平成 28 年の夏には、関西空港利用者の麻しん集団感染が発生し、本県でも患者発生が見られた。またこれとは別に、ほぼ同時期に輸入事例に関連する集団発生も見られた。関空関連の事例は、30 代の女性で関空の利用歴があった。発症から届出まで経過していたため、抗体検査(ペア血清での抗体価の有意上昇)で診断されている。病型は修飾麻しんで、ワクチン接種歴は 1 回有り確認されている。別の輸入事例関連では、2 名(40 代男性、30 代女性)の発生があった。この 2 名は発症前日の麻しん患者(他自治体より届出)と室内での接触があった。2 名ともワクチン接種歴は不明とされている。30 代女性は本人の記憶で 2 回接種歴有りとの事ではあったが、母子手帳等で確認できなかった。病型はこの 30 代女性は修飾麻しん、40 代男性は麻しんであった。またこの事例では、この 2 名の他に 1 名が他自治体から届出されている。この事例については、拡大防止のため報道発表による情報提供により周知が図られ、この後の発生はみられなかった。この事例は保健研究センターによる検査で、麻しんウイルス D8 型が検出されている。これら麻しんの集団感染については、接触者の健康監視等調査が実施されるが、情報センターには情報は入っていない。県庁保健予防課対応である。

表1 全数把握対象疾患報告状況

疾患名	調査年		平成18年(2006年)		平成19年(2007年)		平成20年(2008年)		平成21年(2009年)		平成22年(2010年)		平成23年(2011年)	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
一類														
エボラ出血熱														
クリミア・コンゴ出血熱														
痘瘡														
南米出血熱														
ペスト														
マールブルグ病														
ラッサ熱														
二類														
急性灰白髄炎							2				2		1	
結核			21,946	247	28,419	372	26,996	371	26,866	287	31,483	361		
ジフテリア														
重症急性呼吸器症候群														
中東呼吸器症候群														
鳥インフルエンザ(H5N1)														
鳥インフルエンザ(H7N9)														
三類														
コレラ	37		13		45		16		11		12			
細菌性赤痢	373	3	452	2	320		181	2	235	2	300			
腸管出血性大腸菌感染症	3,819	29	4,617	50	4,322	38	3,889	50	4,134	53	3,940	24		
腸チフス	58	1	47		57	1	29		32	1	21			
パラチフス	22	1	22	1	27		27		21		23			
E型肝炎	46		56	2	43		56		66		61			
ウエストナイル熱														
A型肝炎	224	3	157	1	170	3	115	1	347	2	176			
エキノкокクス症	13		25		22		27		17		20			
黄熱														
オウム病	16		29		9		21	1	11		12			
オムスク出血熱														
回帰熱									1	1				
キャサヌル森林病														
Q熱	2		7		3		2		2		1			
狂犬病	2													
コクシジオイデス症	2		3		2		2		1		2			
サル痘														
ジカウイルス感染症														
重症熱性血小板減少症候群														
腎症候性出血熱														
西部ウマ脳炎														
タニ媒介脳炎														
炭疽														
チクングニア熱													10	
つつが虫病	397		382		442		465		407	2	462			
デング熱	50		89	1	104		93		244	4	113			
東部ウマ脳炎														
鳥インフルエンザ(H5N1を除く)														
ニバウイルス感染症														
日本紅斑熱	49		98		132		132		132		190			
日本脳炎	7		10		3		3		4		9			
ハンタウイルス肺症候群														
Bウイルス病														
鼻疽														
ブルセラ症	4		1		4		2		2		2			
ベネズエラウマ脳炎														
ヘンドラウイルス感染症														
発しんチフス														
ポツリヌス症	2		3		2				1		6			
マラリア	54		52		56		56		73		78			
野兔病					5									
ライム病	12		11		5		9		11		9			
リッサウイルス感染症														
リフトバレー熱														
類鼻疽									4		3			
レジオネラ症	434	3	668	3	893	5	717	4	751	1	818	9		
レプトスピラ症	24		35		42		16		22	1	26			
ロッキー山紅斑熱														
五類														
アเมอร์バ赤痢	598	6	801	10	872	11	786	9	843	11	814	11		
ウイルス性肝炎	188	6	199	2	179		178		174	1	200			
B型	37	2	34	1	53	2	40	1	39		36			
C型														
D型														
その他	4		4		9	1	5		7		14			
不明									1					
(再掲・合計)	229	8	237	3	241	3	223	1	221	1	250			
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症														
急性脳炎	93		228		190		526	1	242	1	258			
クリプトスポリジウム症	15		6		10		17		16		8			
クロイツフェルト・ヤコブ病	140	1	157		152	2	142		172	3	138	1		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	78	2	95	1	113		103	4	122		197	1		
後天性免疫不全症候群	1,058	9	1,493	10	1,568	4	1,446	13	1,553	16	1,535	12		
ジアルジア症	76	3	53	3	76		70	1	77		65	1		
侵襲性インフルエンザ菌感染症														
侵襲性髄膜炎菌感染症														
侵襲性肺炎球菌感染症														
水痘(入院例)														
先天性風しん症候群							2				1			
梅毒	505	2	719	3	839	1	691	2	621	3	827	6		
播種性クリプトコックス症														
破傷風	108		89	1	123		113		106		118			
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症														
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	69		84	1	80		116		120	1	73			
風しん					303	2	147	2	87		378	1		
麻しん					11,015	12	732	3	447	3	439	2		
薬剤耐性アシネトバクター感染症														
髄膜炎菌性髄膜炎	9		17		10		10		7		12			
新型インフルエンザ等														
新型インフルエンザ(A/H1N1)							12,654	305						

表1 全数把握対象疾患報告状況

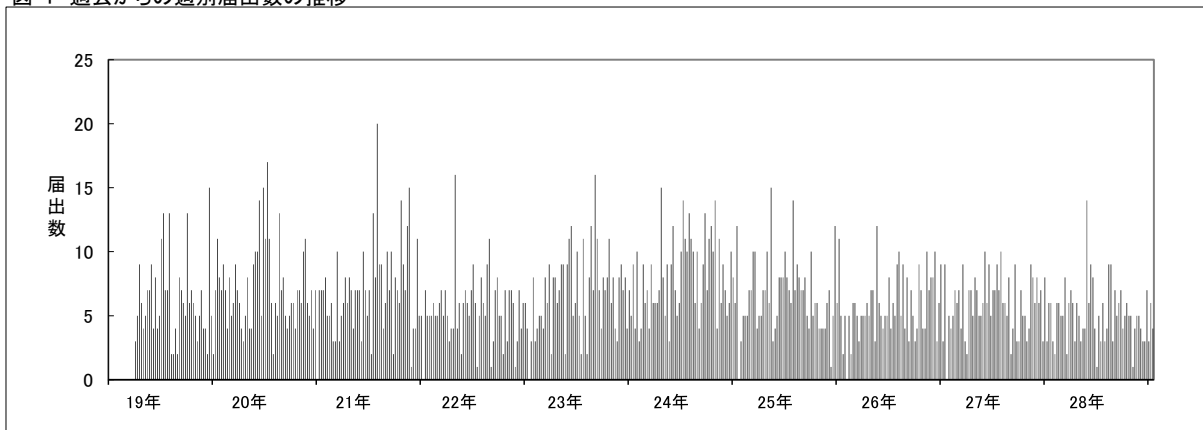
疾患名	調査年		平成24年(2012年)		平成25年(2013年)		平成26年(2014年)		平成27年(2015年)		平成28年(2016年)	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
一類	エボラ出血熱											
	クリミア・コンゴ出血熱											
	痘瘡											
	南米出血熱											
	ペスト											
	マールブルグ病											
	ラッサ熱											
二類	急性灰白髄炎			1								
	結核	29,317	424	27,052	343	26,629	300	24,523	305	24,662	266	
	ジフテリア											
	重症急性呼吸器症候群											
	中東呼吸器症候群											
	鳥インフルエンザ(H5N1)											
	鳥インフルエンザ(H7N9)											
三類	コレラ	3		4		5		7		10		
	細菌性赤痢	214	5	143	1	158		156	1	121	2	
	腸管出血性大腸菌感染症	3,768	17	4,044	30	4,151	23	3,573	27	3,645	23	
	腸チフス	36		65		53	2	37	1	52		
	パラチフス	24		50		16		32	1	20		
	E型肝炎	121		127		154		212	2	356	2	
	ウエストナイル熱											
	A型肝炎	157		128		433	8	243	2	271	3	
	エキノкокクス症	17		20		28		25		22		
	黄熱											
	オウム病	8		6		8		5		6		
	オムスク出血熱											
	回帰熱	1		1		1		4		7		
	キャサヌル森林病											
	Q熱	1		6		1						
	狂犬病											
	コクシオイトデス症	2		4		2		3		3		
	サル痘											
	ジカウイルス感染症										12	
	重症熱性血小板減少症候群			48		61		60		60		
	腎症候性出血熱											
	西部ウマ脳炎											
	タニ媒介脳炎										1	
	炭疽											
	チクングニア熱	10		14	1	16	1	17		13		
	つつが虫病	436	1	344		320		422		505		
	デング熱	221	5	249	2	341	3	293	4	339	5	
	東部ウマ脳炎											
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)											
	ニバウイルス感染症											
	日本紅斑熱	171		175		241	1	215		276		
	日本脳炎	2		9		2		2	1	11		
	ハンタウイルス肺症候群											
	Bウイルス病											
	鼻疽											
	ブルセラ症			2		10		5		2		
	ベネズエラウマ脳炎											
	ヘンドラウイルス感染症											
	発しんチフス											
	ポツリヌス症	3				1		1		5	1	
	マラリア	72	1	47	2	60	1	40	2	54		
	野兔病					1		2				
	ライム病	12		20	1	17		9		8		
	リッサウイルス感染症											
	リフトバレー熱											
	類鼻疽			4				1				
	レジオネラ症	899	8	1,124	12	1,248	11	1,592	8	1,602	10	
	レプトスピラ症	30		29		48		33		76		
	ロッキー山紅斑熱											
五類	アメーバ赤痢	932	6	1,047	8	1,134	15	1,109	18	1,150	11	
	ウイルス性肝炎	186		236	2	188	1	206	2	226	1	
	B型	38	1	30		27		35		34		
	C型											
	D型											
	その他	12		20		11		14		16		
	不明											
	(再掲・合計)	236	1	286	2	226	1	255	2	276	1	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症					314	5	1,671	28	1,570	22	
	急性脳炎	371		369		459	3	511	4	764	4	
	クリプトスポリジウム症	6		25		98		15		14		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	185	3	203	8	177		192	2	175	3	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	242	1	203	1	268	2	415	2	497	5	
	後天性免疫不全症候群	1,438	11	1,586	8	1,538	14	1,431	14	1,442	3	
	ジアルジア症	72		82	1	68		81		71	1	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症			108		200	2	252	3	312	6	
	侵襲性髄膜炎菌感染症			23		37		34	1	43	1	
	侵襲性肺炎球菌感染症			1,001	9	1,825	20	2,403	21	2,736	23	
	水痘(入院例)					143	5	313	6	318	3	
	先天性風しん症候群	4		32		9						
	梅毒	875	6	1,228	6	1,661	16	2,690	19	4,559	36	
	播種性クリプトкокクス症					37		120		137	1	
	破傷風	118		128	2	126	1	120		129	3	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症											
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	91		55		56		66	1	63	5	
	風しん	2,386	18	14,344	180	319	5	163	1	126		
	麻しん	283		229		462	1	35	1	165	3	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症					15		38		33		
	髄膜炎菌性髄膜炎	15	1	2								
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)											

ゼロ値は表示していない

結核

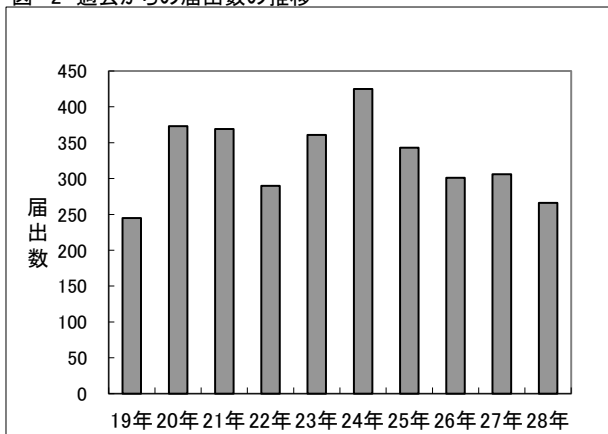
(別添1)

図-1 過去からの週別届出数の推移



※H19年4月1日～より、全数報告対象疾患となっている

図-2 過去からの届出数の推移



※H19年4月1日～より、全数報告対象疾患となっている

図-5 週別届出数

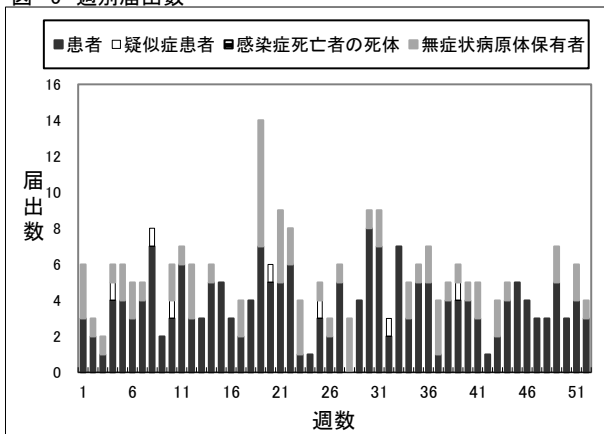


図-3 年齢別届出数

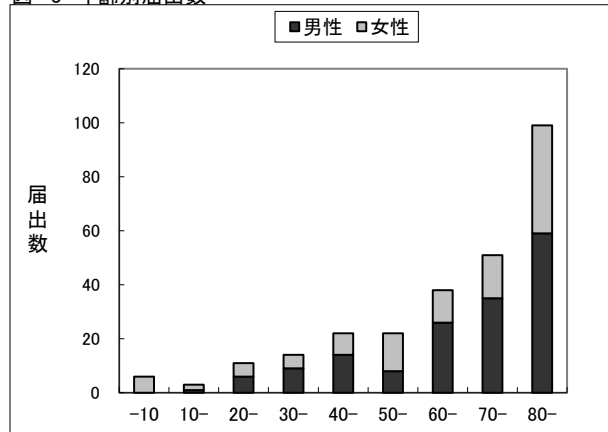


図-6 病型別

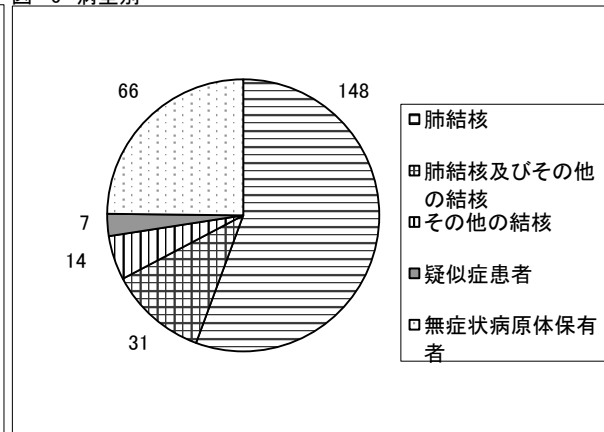
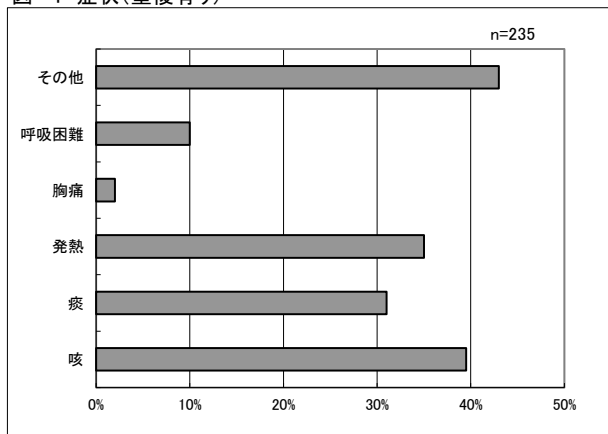


図-4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内:209例
 国内(県外・不詳):51例
 海外:6例

腸管出血性大腸菌感染症

(別添2)

図-1 過去からの週別届出数の推移

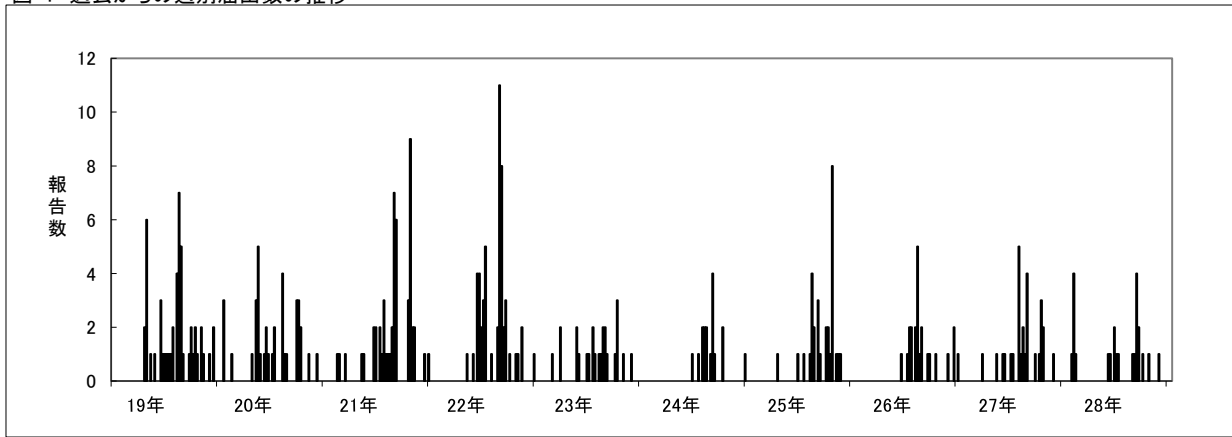


図-2 過去からの届出数の推移

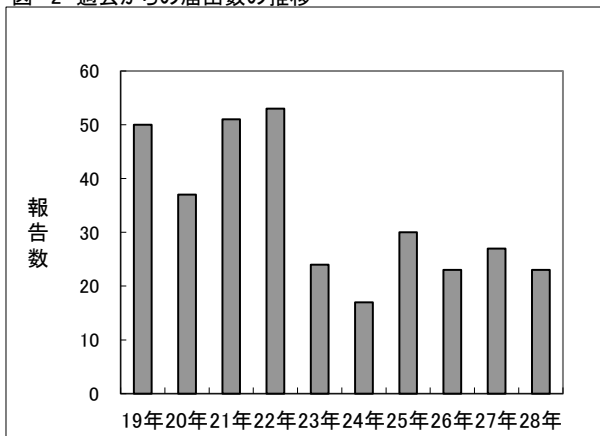


図-5 週別届出数

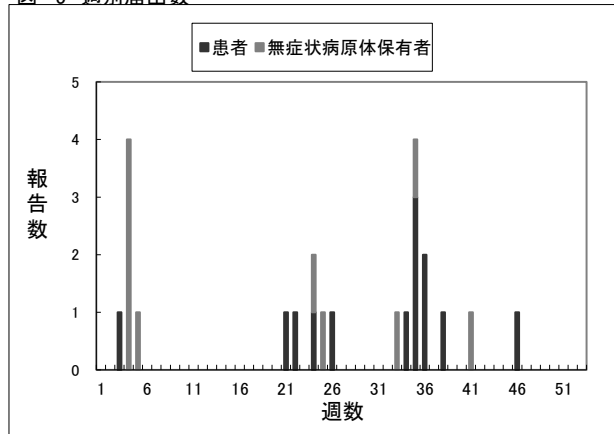


図-3 年齢別届出数

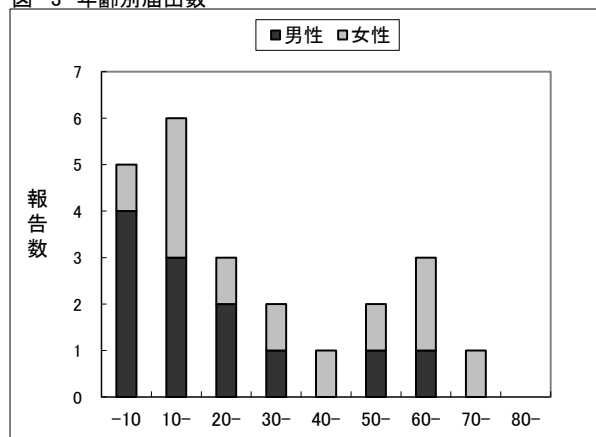


図-6 血清型別患者報告数

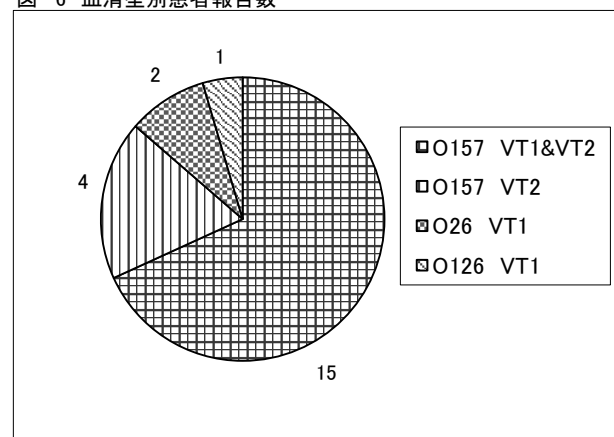
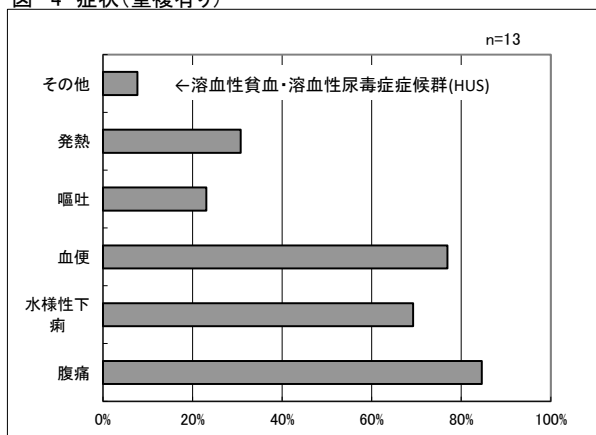


図-4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定を含む)

県内 21例
県外 2例

感染経路(推定含む)

経口感染 13例
うち7名に肉類(焼肉・牛肉・ハンバーグ・生レバー)記載あり
接触感染 1例
不明 9例

梅毒

(別添3)

図-1 過去からの週別報告数の推移

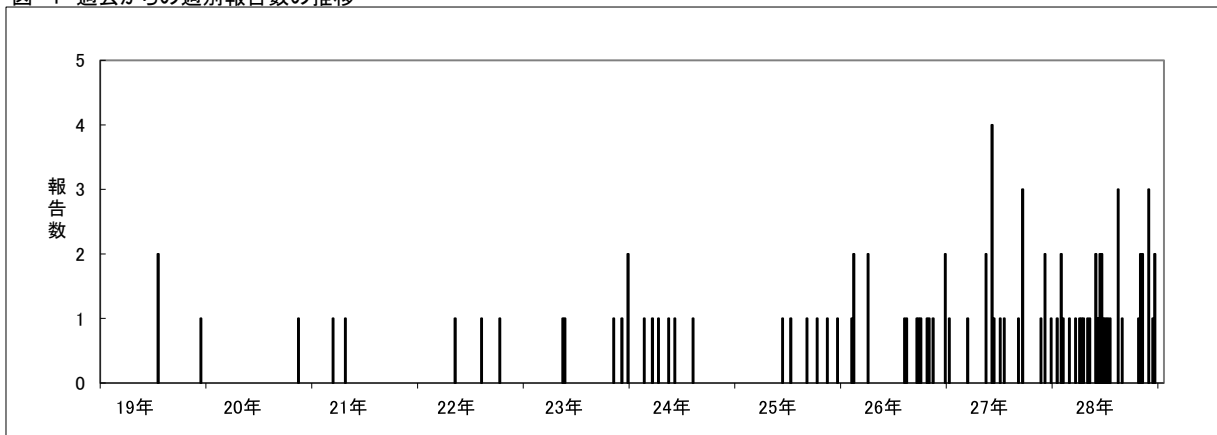


図-2 過去からの届出数の推移

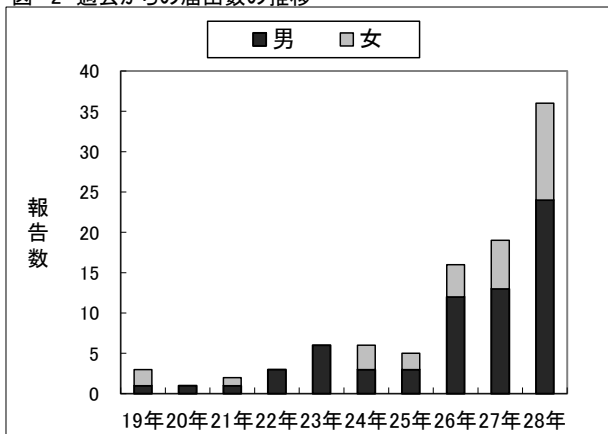


図-5 週別届出数

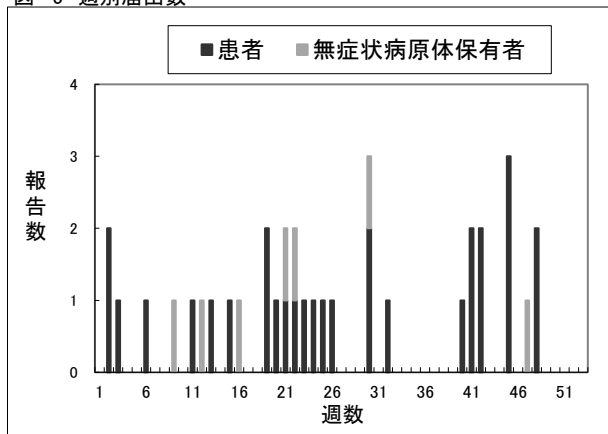


図-3 年齢別届出数

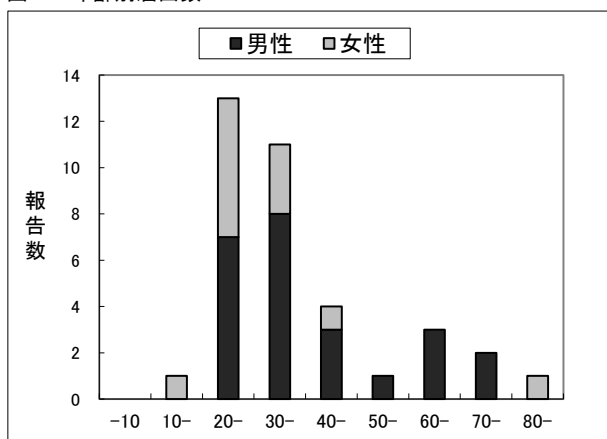


図-6 年齢群別の届出数の推移

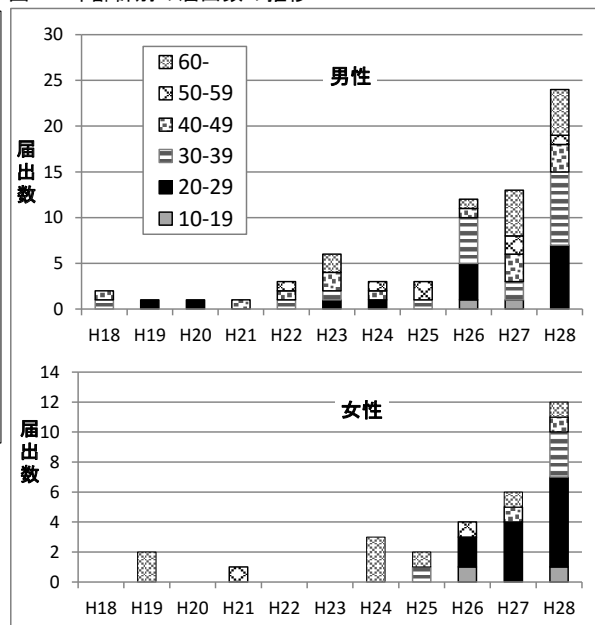
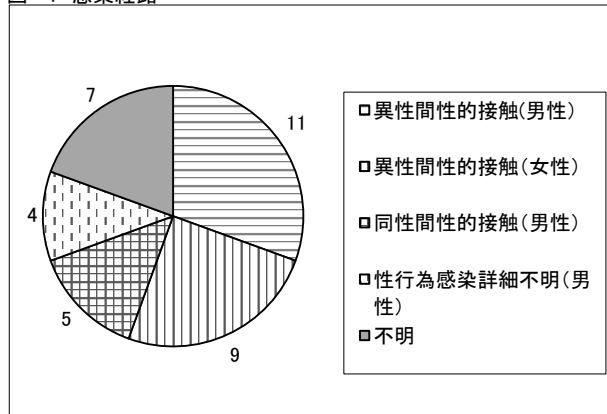


図-4 感染経路



概要

感染地域(推定含む)
 県内 16例
 県外 19例(国内不明含む)
 国外 1例(中華人民共和国 マカオ)